

TOP MESSAGE

スポーツの社会的責任を意識し、
より健やかで豊かな共生社会の実現を目指してまいります。

2015年に国連において採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、今や多くの企業にとって社会的責任を果たす指標となっていますが、当社は、SDGsの17のゴール各々がつながりを持ち、相互に作用するものと考えて、それぞれの課題に対して目標達成は微力でも、ひとつひとつの地道な活動を積み重ねることが、持続的な社会貢献につながるものと考えます。

昨今、地球規模の環境問題の中でも、プラスチック汚染問題が大きく取り上げられ、G20の環境相会議においても新たな国際的枠組みが設けられました。当社は、持続可能な製品開発の指針である「GREEN IS GOOD」のもと、環境負荷の低い素材の活用や、製品のリサイクルに積極的な取り組みを行っております。加えて、スパイバー社と共同開発し、今年発売を予定している「構造タンパク質素材」は、最も環境負荷が低い理想的な素材であり、今後もスパイバー社との共同開発を継続して、持続的な成長と環境負荷の低減に努めてまいります。

また、当社は「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を経営理念とし、健常者にも障がい者にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられる共生社会を目指して、障がい者スポーツをはじめとして、様々なスポーツの支援を行っております。「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、「SPORTS FIRST:スポーツファースト」で、誰もが健やかで豊かに暮らせる共生社会の実現を目指してまいります。

そして、何よりもスポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、スポーツのチカラを信じる「SPORTS FIRST:スポーツファースト」という強い想いを持つ社員の安全・安心と健康を支えると共に、強くて、早くて、きれいな経営を堅持して、公正で開かれた企業活動を実践してまいりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



2019年10月
株式会社ゴールドウイン
代表取締役

西田明男

持続可能な社会構築への貢献

SPORTS FIRST

スポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、より良い製品・サービスの具現化につなげていく——

そんな想いを込めて、当社はタグラインとして「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」を掲げています。企業理念「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」の実現に向けて、私たちはすべての取り組みにおいて、スポーツ・ファーストを貫いています。

ゴールドウィンが目指す「サステナビリティ」

「持続可能な開発目標 (SDGs)」が目指すものは、当社が目指すものと同じ「共生社会の実現」です。そのため、当社でも微力ながら貢献できるSDGsの目標があると考えます。また、SDGsのゴールは、別々に達成するものではなく、各々がつながりを持ち、相互に作用するものです。当社が目指すサステナビリティも、環境配慮だけではなく、社会との関わり、経済活動も含めた当社の事業そのものに関わるものです。

SDGsでは、17の目標を「People (人)」「Prosperity (豊かさ)」「Peace (平和)」「Planet (地球)」「Partnership (連帯)」に分類しています。本レポートでは、2018年度の当社の主な活動を、当社の事業活動があてはまる3つ (People, Prosperity, Planet) に大別し、ご報告いたします。



持続可能な開発目標 (SDGs) 17のゴール

PEOPLE

誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与する。

健康な人にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを目指します。

【ゴールドウインの取り組み例】

- ・障がい者スポーツへのサポートと、障がい者スポーツに対する理解促進に向けた取り組みを推進。
- ・オフィシャルスポーツアパレルサプライヤーやメインスポンサーとして、各種スポーツ大会をサポート。
- ・子どもたちを対象にした取り組みやスポーツ支援活動を推進。

→詳しい内容はP6~11

PROSPERITY

持続可能な「豊かさ」を多彩な側面から追求する。

技術革新の追求、職場環境の整備、地域のスポーツ振興など、多彩な側面から持続可能な「豊かさ」について常に考え、取り組みを推進します。

【ゴールドウインの取り組み例】

- ・スポーツウェアの技術を生かして各種高機能ウェアを提案。
- ・各地域のスポーツ大会に協賛。社員も運営スタッフとして参加。
- ・「東京都スポーツ推進企業」「スポーツエールカンパニー」に認定。

→詳しい内容はP12~19

PLANET

美しい自然環境を次世代に確かに受け渡す。

環境に配慮した製品の開発、楽しみながら環境への負担を減らせるようなアイデアなど、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを「GREEN IS GOOD」のコンセプトのもとで展開しています。

【ゴールドウインの取り組み例】

- ・循環型リサイクルシステム「GREENCYCLE」を継続。
- ・全国の各店舗で周辺地域の清掃活動を実施。
- ・「環境基本理念」と「環境方針」を定め、持続可能な社会実現のための行動計画を作成。

→詳しい内容はP20~29

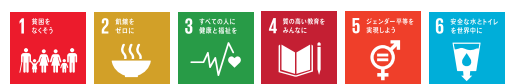
PEACE & PARTNERSHIP

「平和・安全・ガバナンス」と「SDGs実施推進の体制・手段」

現時点では、当社の事業活動により貢献できる3つのP (People、Prosperity、Planet) に分類される取り組みに注力します。今後、PeaceとPartnershipに分類される取り組みについて、当社ができることを検討してまいります。

PEOPLE

当社は、健康な人にも障がいのある人にも分けへだてなくスポーツを楽しむ機会が与えられるよう、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを目指しています。



スポーツを通じて誰もが分けへだてなく健やかに暮らせる「共生社会」の実現を目指します。

PEOPLE



スポーツ支援

スポーツ用品メーカーとして蓄積してきた技術と経験をもとに、当社はスポーツ支援活動を積極的に行っております。障がい者スポーツへの支援については、2015年4月に日本障がい者スポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結したことをはじめとして、日本身体障がい者水泳連盟、日本ウィルチェアラグビー連盟、日本ボッチャ協会とも契約し、当社が企画・生産するブランドで日本代表チームへウェアの提供を行っています。継続的に誰もがスポーツに参加し、楽しめる環境づくりをサポートしています。

ゴールドウイン ナスターレース ユース・ジャパンカップにて チェアスキー体験会を開催

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとして障がい者スポーツを応援する当社では、様々な障がい者スポーツ団体と協力し、障がい者スポーツの普及活動にも力を入れています。

2019年3月9日・10日に開催された、当社が特別協賛するゴールドウイン ナスターレース ユース・ジャパンカップでは、その併催イベントとして、チェアスキー体験会を開催しました。体験会は、日本障害者スキー連盟ならびに日本チェアスキー協会の協力のもと、パラリンピアン高村俊彦氏をはじめとするインストラクターを迎え、デモンストレーションを交えながら行い、子どもから大人までたくさんの方々に体験していただくことができました。当社がチェアスキー体験会を開催するのは本年度で3回目となり、今後もこの活動を継続することで、多くの人にチェアスキーを体験する機会を提供し、健常者と障がい者が一緒に楽しむことができるスポーツへの理解の輪を広めることに貢献していきます。



PEOPLE

障がい者スキー日本代表チームに新ウェアを提供

特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟とのオフィシャルサプライヤー契約に基づき、2018／19シーズン着用ウェアを提供しました。提供したのは、アルペンスキーチーム(身体・知的障害)、ノルディックスキーチーム(身体・知的障害)、スノーボードチーム(身体)の各日本代表メンバーおよび役員・スタッフ着用分のウェアです。

ウェア提供は、2017／18シーズンより開始。2018／19シーズンのウェアは、選手たちからの意見を取り入れるとともに、当社研究開発施設「ゴールドウイン テック・ラボ」において選手のボディを3Dスキャンしたデータを基に設計するなど、選手がパフォーマンスをより発揮しやすいよう改良しました。



当社がサポートするNPO法人の代表がパラクライミング世界選手権で3連覇

当社では、障がい者クライミングの普及活動に取り組むNPO法人モンキーマジックへのサポートを、2006年より継続しています。同法人の代表である小林幸一郎氏が2018年9月13日、オーストリアにて開催されたパラクライミング世界選手権の視覚障害カテゴリー男子B1クラスで、金メダルを獲得。3連覇を果たしました。

【支援Tシャツを製作・販売】

当社はNPO法人モンキーマジックを支援するTシャツ「Monkey Magic Tee」を「THE NORTH FACE(ザ・ノース・フェイス)」ブランドで毎年製作・販売し、売上の一部を寄付しています。

寄付金は、視覚障がいの児童・生徒や大人を対象としたインドアジム、自然の岩場を利用したクライミングスクール、障がいのある方もない方も共に楽しめる交流イベントの定期的な企画運営、講演会や体験会の実施など、さまざまな普及啓発活動に使われます。



PEOPLE

ALS患者の支援のために、Tシャツの売上の一部を寄付

グループ会社のカンタベリーオブニュージーランドジャパンは、複数のALS（筋委縮性側索硬化症）支援団体に協力しています。2018年は、6月21日の「ALS Global Day」に合わせて「ALS Global Day オリジナルTシャツ」を作製。その売上の一部をJALSA日本ALS協会、NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会に寄付しました。

カンタベリーオブニュージーランドジャパンは、ラグビージャージやスポーツウエア、カジュアルウエアの製造・販売を行っています。今後も「Supporting People with ALS through The Spirit of RUGBY」のメッセージと共に、多くの元スポーツ選手やラグビー選手の患者さんが苦しんでいる難病が一日でも早く解明できるよう、継続して協力していきます。



車いすラグビーの国際大会に協賛

当社の目指す「誰もが等しくスポーツを楽しむことができる共生社会の実現」の一環として、グループ会社のカンタベリーオブニュージーランドジャパンが1997年からラグビー日本代表チーム、当社が2016年から車いすラグビー日本代表チームの着用ジャージを、それぞれ「CANTERBURY（カンタベリー）」ブランドで提供してきました。

2019年10月16日から20日に東京体育館（東京都渋谷区）で開催される車いすラグビーの国際大会「車いすラグビーワールドチャレンジ2019」には、当社がオフィシャルサプライヤーとして協賛します。大会関係者、ボランティアを含む運営スタッフが着用するTシャツ、ポロシャツ、アウターなどのウエアを「CANTERBURY」ブランドで提供しました。

【社員が会場設営ボランティアに参加】

2018年5月24日から27日に千葉ポートアリーナで開催された「2018ジャパンパワウィルチェアラグビー競技大会」（日本障がい者スポーツ協会主催）では、当社社員13名（うち新入社員10名）が会場設営ボランティアに参加しました。この取り組みは、当社の障がい者スポーツ支援活動への理解を深めることを目的に実施しています。2015年に日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーを務め始めて以来、新入社員も研修の一環として参加しており、2018年で4回目となります。



PEOPLE

全盲セーラー岩本光弘さんとダグラス・スミスさんが、 世界初の快挙となるノンストップ太平洋横断を達成

ヘリーハンセンがセーリングウエアを提供する全盲セーラーの岩本光弘氏が、世界初となるノンストップ太平洋横断を達成されました。2013年のチャレンジから5年、今回はダグラス・スミス氏がセーリングパートナーとなり、40フィートのDREAM WEAVER号で55日間、約6000海里（約11,000km）に及ぶ航海に挑み、見事無寄港太平洋横断という快挙を成し遂げられました。

「全盲だが経験豊かなヨットマンと、目が見える新米セーラーがお互いの弱点を補い合うことで、大きな目標を達成する」という、障がい者・健常者にかかわらず等しくスポーツを楽しむという目的に賛同し、ヘリーハンセンは前回の挑戦に引き続き、二人が快適かつ安全に航海を進められるよう、防水のジャケットからアンダーウエアまで全28アイテムを提供しました。



ヘリーハンセンがメインスポンサーをつとめる

North Japan Open Sailing Championshipが開催されました。

2018年5月25日～5月27日に、宮城県関上において、【North Japan Open Sailing Championship supported by HELLY HANSEN】が行われました。

東北・北海道のヨット部などに所属する学生自らが起案し運営している本大会は今年で3回目を迎え、ヘリーハンセンは初開催からこの大会のメインスポンサーをつとめ、選手用のビブス、運営スタッフのジャケットをサポートしています。

ヘリーハンセンは今後もNorth Japan Open Sailing Championship大会のサポートを続ける予定です。



PEOPLE

次世代育成

子どもたちがスポーツの楽しさを知ることは、心身の健やかな成長につながります。当社では、子どもたちを対象にしたさまざまなスポーツ支援活動も実施。また、家族でスポーツの楽しみを知ってもらうため、親子参加型のイベントにも積極的に取り組んでいます。

子ども向けのさまざまなスポーツイベント・大会をサポート

次世代を担う子どもたちの育成に貢献できるよう、2018年度もさまざまな子ども向けスポーツイベント・大会をサポートしました。

【小学生向けラグビーイベント】

2018年10月8日に駒沢オリンピック公園総合運動場で「体育の日記念行事」の一環として開催された小学生向けラグビーイベント（公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団主催）に、グループ会社のカンタベリーオプニュージーランドジャパンが協賛しました。

【MIPスポーツゲームズ】

子どもたちに将来のスポーツライフをより豊かにするきっかけを与えることを目的としたイベント「MIPスポーツゲームズ」（特定非営利活動法人 MIPスポーツ・プロジェクト主催）に特別協賛しました。2002年から協賛を始め、2018年で17年目となります。

【PGAジュニアゴルフ選手権 太平洋クラブカップ】

2018年8月21日・22日に太平洋クラブ益子PGAコース（栃木県芳賀郡）で開催されたこの大会に、グループ会社のブラックアンドホワイトスポーツウェアが協賛。「and per se（アンパスイ）」のウェアを出場選手128名と大会役員に提供しました。

【ゴールドウイン ジュニアチャレンジゴルフ大会】

2018年8月1日、ゴルフ倶楽部ゴールドウイン（富山県小矢部市）において開催。9回目を迎えたこの大会は、小学生から高校生までのジュニアゴルファーを対象に、競技力の向上だけでなく、ルールやマナーを学んでもらうことを目的に開催しています。



PEOPLE

健やかな成長を守るために、 保育園との取り組みを開始

当社が国内展開するブランド「THE NORTH FACE (ザ・ノース・フェイス)」は、子どもたちの健やかな成長を守るために、保育園との取り組みを2018年度から開始しました。

通園など、年間を通じて使用頻度の高いアイテムにおいて安全で快適な機能を持つ製品を使っていただきたいという想いからスタートし、2018年度は「やまご保育園」(山形県鶴岡市)の園児が日々の生活で使用する帽子とデイパックに「THE NORTH FACE」ブランドの製品が採用されました。今後もこの取り組みを広げていく予定です。

【やまご保育園 採用商品】

■キッズ ホライズンハット／紫外線から頭部を守るサンシールドハット。撥水性に優れ、UVケア機能を備えた生地を使用しています。

■キッズ スモールデイ／未就学児から小学生まで対応する機能的なアウトドア用デイパック。セーフティーバックルを使用したチェストストラップやリフレクターなど、夜道や負荷がかかった際の安全性にも配慮した仕様。

■キッズ ホームスライス／行動範囲が広がる3歳から4歳ほどのお子様に対応する小型デイパック。背面とショルダーハーネスは背負い心地の良さにこだわり、柔らかい仕上がり。



自然を体感しながら親子で学ぶ「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」

未来の地球を受け継ぐ子どもたちとその親御さんに、自然に寄り添い、生きる力を育んでもらいたいという思いから、親子が自然の中で楽しみながら学ぶ「THE NORTH FACE KIDS NATURE SCHOOL」を2018年度も継続して開催しました。



5/12(土)～13(日) 生きる力を育むキッズプログラム／PICA富士西湖(山梨県)

5/26(土) ファミリートレッキング／御在所(三重県・滋賀県)

5/27(日) ファミリーインドアクライミング／Climb Park Base Camp(埼玉県・入間市)

6/2(土) Nature Education DAY／国営昭和記念公園(東京都立川市・昭島市)

6/17(日) インドアクライミング／グラビティリサーチ なんば(大阪府・大阪市)

7/7(土) ファミリートレッキング／入笠山(長野県富士見市・伊那市)

7/14(土) ファミリートレッキング／樽前山(北海道苫小牧市)

8/25(土)～26(日) エクスプローラーキャンプ／一ノ瀬高原キャンプ場(山梨県甲州市)

9/23(日) ファミリークライミング／笠置ボルダー(京都府笠置町)

10/13(土)～14(日) 兵庫県エクスプローラーキャンプ／湯の原温泉オートキャンプ場(兵庫県豊岡市)

10/20(土) FAMILY CLIMBING in 瑞牆山エリア／瑞牆山エリア(山梨県)

11/3(土)～4(日) 熊本県エクスプローラーキャンプ／坊中野営場【坊中キャンプ場】(熊本県阿蘇市)

11/10(土) キッズトレッキング in 御岳山／御岳山(東京都西多摩郡奥多摩町)

11/18(日) ファミリートレッキング in 甲山森林公園／甲山森林公園(兵庫県西宮市)

2/2(土) ファミリースノーシュートレッキング in 蓬萊山／蓬萊山(滋賀県大津市)

3/10(日) スキー&スノーボード／野沢温泉スキー場(長野県下高井郡)

3/30(土) スキー／さっぽろぼんけいスキー場(北海道)

PROSPERITY

Prosperityは「豊かさ」や「繁栄」を意味します。ものづくり企業としてお客様にさらなる豊かさを提供するために、技術革新を追求する。社員が日々、豊かさや自らの成長を実感しながら働けるよう、職場環境や研修制度を整える。地域社会の繁栄に、スポーツ振興などを通じて貢献する。私たちは多彩な側面から持続可能な「豊かさ」「繁栄」について常に考え、取り組みを推進しています。



技術革新の追求、職場環境の整備、地域のスポーツ振興など、多彩な側面から持続可能な「豊かさ」について常に考え、取り組みを推進します。

PROSPERITY



イノベーション

SDGsでは目標9において「産業と技術革新の基盤をつくろう」を掲げています。イノベーションに取り組み、産業の成長につなげることは、持続可能な開発を促進する上で重要な手段の1つです。当社は創業から培ってきた技術と、新たに導入する最先端技術を生かし、誰もが想像し得ない新たな価値を持った製品の開発に努めています。

スポーツウエアの技術を生かして各種高機能ウエアを提案

当社では、スポーツ分野で培ってきた開発技術を生かし、1986年よりハイテックウエア（防塵服）の開発に着手。防塵性だけでなく、動きやすさ、着心地の良さ、通気性や透湿性など、さまざまな機能を備えたハイテックウエアを提案しています。

「半導体・液晶」「製薬」「食品」の異なる3分野の超清浄空間に対応するクリーンルームウエアをはじめ、快適性と安全性を重視したクリーンルーム用シューズ、その他高性能製品の研究開発を進め、製品化しています。



【インターフェックス ジャパンに出展】

2018年6月27日から29日に東京ビッグサイトで開催された、医薬・化粧品・洗剤の製造・研究開発に関する専門技術展「第31回 インターフェックス ジャパン」に出展しました。当社の出展は22回目となり、今回は「オートクレーブ対応ファスナー付きセーフティブーツ」をはじめとする高性能製品を紹介しました。

【東京国際消防防災展に出展】

2018年5月31日から6月3日に東京ビッグサイトで開催された「東京国際消防防災展2018」に初出展。水難救助活動時や海上での作業時に着用する防水スーツなど、スポーツウエアの技術を生かして開発した製品を、消防・防災関係者に提案しました。

PROSPERITY

「宇宙下着」の技術を応用した消臭アンダーウェアを販売

頻繁に着替えができず、シャワーもない宇宙空間で過ごす宇宙飛行士向けに、当社は、JAXA(宇宙航空研究開発機構)、J-Spaceと共に、消臭素材「マキシフレッシュプラス」を開発。この素材を使用した「宇宙下着」は、2008年より複数回、日本人宇宙飛行士により、国際宇宙ステーションで着用実験が行われました。そして2010年から同素材を採用したウェアを一般市場向けに「MXP(エムエックスピー)」ブランドとして企画・販売しています。



【文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を受賞】

グループ会社のゴールドウィンテクニカルセンターで技術主席を務める沼田喜四司が、平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発部門)を受賞しました。

沼田喜四司はスポーツウェア試作・設計・CAD関連技能の第一人者。2004年、JAXAが主管する「近未来宇宙暮らしユニット(リーダー:多屋淑子/日本女子大大学院・家政学部被服学科教授)」に参画し、宇宙船内用日常服開発の一翼を担いました。

【限定メッセージTシャツ】

「MXP」ブランドで毎年ひとりのデザイナーを起用し、「臭わない、を着る。」をテーマにした限定メッセージTシャツを企画。第一回目のデザイナーとして平林奈緒美さんを起用し、限定店舗で販売しました。



【備後の坂本デニムとコラボレーション】

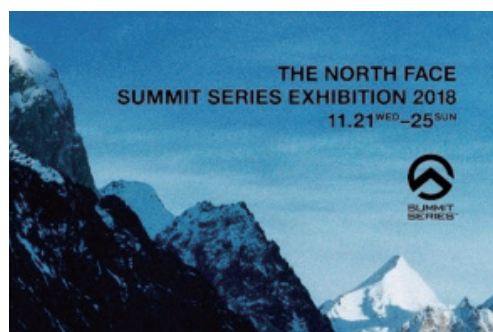
1892年創業で、藍の特性を熟知した坂本デニム(広島県福山市)とコラボレーションし、「MXP」ブランドで初の藍染め調商品「インディゴシリーズ」を当社直営店など全国55店舗で販売しました。



「THE NORTH FACE SUMMIT SERIES EXHIBITION 2018」を開催

「THE NORTH FACE(ザ・ノース・フェイス)」ブランドの最上級の商品群「SUMMIT SERIES」の世界観を表現した展示会「THE NORTH FACE SUMMIT SERIES EXHIBITION 2018」を11月21日から25日、BANK GALLERY(渋谷区)にて開催しました。

会場では、先進のテクノロジーを搭載した製品ラインナップの展示、アスリートによるトークショー、写真家・石川直樹氏の「K2写真展」などが開催されました。



PROSPERITY

地域への貢献

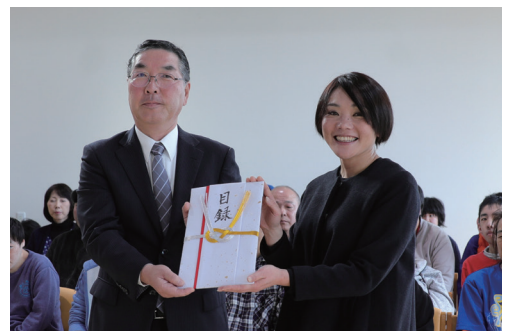
SDGsの目標11では「住み続けられるまちづくりを」を掲げています。当社は創業地・富山をはじめ、全国各地のコミュニティー発展に貢献するため、それぞれの地域でのスポーツ振興にも積極的に取り組んでいます。

「寛仁親王記念杯 第20回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」を特別後援

2018年10月18日、富山県小矢部市のゴルフ倶楽部ゴールドウインにて開催された「寛仁親王記念杯 第20回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」を今回も特別後援しました。

本大会はゴルフを通じて障がい者福祉への正しい理解を深める活動の推進を目的としており、当社もその開催に毎年協力しています。2018年も社員約20名が、事務局や受付・会計担当などの運営スタッフとして協力しました。

さらに、収益金の一部を地元北陸の福祉関係団体・施設などへ贈呈し、贈呈先では施設の改修や備品・設備の購入、運営資金などに生かされています。2018年は、純益金100万円を「特定非営利活動法人 工房あおの丘」(富山県下新川郡入善町)に贈呈しました。12月6日に贈呈式が行われ、大会事務局責任者の谷敷裕喜(ゴルフ倶楽部ゴールドウイン支配人)より目録が手渡されました。



「第38回スポニチ山中湖ロードレース」に協賛

当社は、2018年5月27日に行われた「スポニチ山中湖ロードレース」に、「C3fit(シーズリーフィット)」ブランドで協賛しました。この大会には、山中湖一周(13.6km)、ハーフマラソン(21.0975km)の種目があり、合わせて約1万3,000人が参加しました。

当社は36年にわたってこの大会の協賛を務めており、2018年も参加賞として配布されるTシャツと、スタッフジャンパーを製作・提供しています。



PROSPERITY

「富山マラソン2018」に社員が大会公式ボランティアとして参加

当社創業の地、富山県で2018年10月28日に開催された「富山マラソン2018」にゴールドパートナーとして特別協賛し、運営スタッフウェアの提供をはじめ、大会を盛り上げるためにさまざまなサポートを行いました。当社はこの大会を2015年の第1回大会からゴールドパートナーとして特別協賛しており、今回で4回目となります。

今大会も当社社員35名が大会公式ボランティアとして参加。給水所にて参加選手に水およびスポーツドリンクを提供するとともに、社員有志による私設エイドも設営し、ランナーにエールを送りました。

【過去大会のTシャツを回収】

大会前日に富山市総合体育館で開催された「富山マラソン2018 EXPO」では、過去の大会において配布・販売された「大会参加Tシャツ」「大会記念Tシャツ」（ゴールドウイン製）を当社ブース内で回収しました。回収したTシャツは、新たな繊維に再生されます。



「ULTRA-TRAIL Mt. FUJI」に社員を運営スタッフとして派遣

2018年4月27日から29日に行われた、富士山の山麓、登山道、歩道、林道などを走る国際トレイルランニングレース「ULTRA-TRAIL Mt. FUJI」に特別協賛しました。第1～5回大会に続き、6回目の特別協賛です。

社員を運営スタッフとして派遣するのも6回目となります。社員は今回、装備チェック、山岳エリアでの誘導・サポート、ウォーターステーションでの給水などを行いました。



PROSPERITY

働きがい

SDGsでは目標8において、生産性の向上と技術革新により、持続的な経済成長を促進することを目指しています。社員が豊かさや働きがいを実感しながら働くことができる環境構築に努めています。

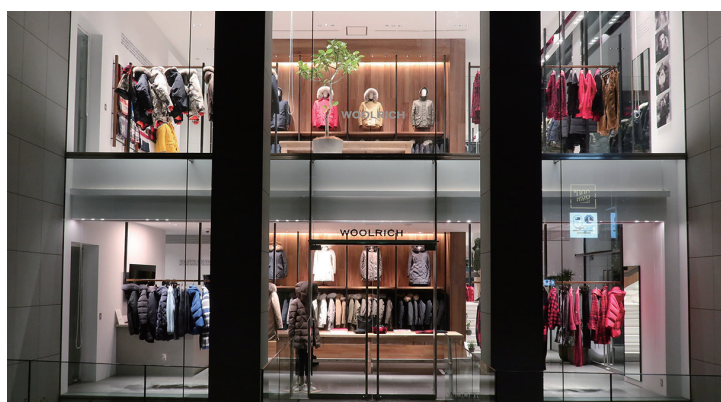
各地に出店し、社員の活躍の場を拡大

2018年も多様な業態の店舗を各地に出店し、社員の活躍の場を広げました。また、現地で販売スタッフを採用することで、地域の雇用創出にも貢献しています。



【「Goldwin」初の直営旗艦店オープン】

当社オリジナルブランドで、スキーを原点とした高機能ウェアを提案する「Goldwin」初の直営旗艦店「Goldwin Marunouchi(ゴールドウイン 丸の内)」を2018年11月8日、東京都千代田区にオープンしました。



【ウールリッチジャパンが南青山に旗艦店をオープン】

グループ会社であるウールリッチジャパンが、直営店としては初出店となる「WOOLRICHサッポロファクトリー店」を2018年9月27日、北海道札幌市にオープンしました。

【その他にも数多くの新店舗を各地にオープン】

◎4月28日にグランドオープンした「信毎メディアガーデン」(長野県松本市)に、「THE NORTH FACE 松本店」を出店

◎5月8日から5月17日(木)までの10日間限定で、ラフォーレ原宿(東京都渋谷区)に「ellesse HERITAGE」のポップアップストアをオープン

◎5月12日にリニューアルオープンした道の駅びえい「白金ビルケ」(北海道上川郡美瑛町)に「美瑛白金ビルケ THE NORTH FACE コーナー」を出店

◎2018年8月31日から2019年1月31日(木)までの5か月間限定で、ラフォーレ原宿(東京都渋谷区)に「ellesse HERITAGE TOKYO(エレッセヘリテージトーキョー)」をオープン

◎9月15日、「MARK IS みなとみらい」(神奈川県横浜市)に「HELLY HANSEN」をオープン

◎9月21日、「グランフロント大阪」(大阪府大阪市)に「DANSKIN beautiful things」をオープン

◎9月25日にグランドオープンした「日本橋高島屋S.C.」(東京都中央区)に「NEUTRALWORKS.STAND」「NEUTRALWORKS.NIHOMBASHI」「THE NORTH FACE日本橋店」を3店舗を出店

◎9月29日、ウールリッチジャパンが東京都港区に旗艦店「WOOLRICH青山店」をオープン

PROSPERITY

障がい者水泳選手2名が社員として在籍

当社には、障がい者水泳選手の鈴木孝幸と池田浩昭が、社員として在籍しています。障がい者アスリートを同じ会社の仲間として応援することで、社員に障がい者の方々への理解や親近感を自然に身につけてもらうことを目指しています。

鈴木孝幸と池田浩昭は、2018年9月22日から24日に横浜国際プール（神奈川県横浜市）で開催された「2018ジャパンパラ水泳競技大会」、12月1日・2日に三重交通Gスポーツの杜 鈴鹿水泳場（三重県鈴鹿市）で開催された「第35回日本パラ水泳選手権大会」、それぞれの大会において共にメダルを獲得しました。

また、鈴木孝幸は8月9日から13日にオーストラリア・ケアンズで開催された「パンパシフィックパラ水泳選手権大会」に日本代表として出場し、金メダル3個、銀メダル1個を獲得しました。

鈴木孝幸は10月6日から13日までインドネシア・ジャカルタで行われた「インドネシア2018 アジアパラ競技大会」にも日本代表として出場し、出場5種目すべてで金メダルを獲得しました。この大会では日本選手団主将も務めました。

【社員観戦ツアーを実施】

鈴木孝幸と池田浩昭が出場した「2018ジャパンパラ水泳競技大会」の観戦ツアーを、社員とその家族を対象に実施しました。約40名の社員・家族が参加し、お揃いのTシャツを着用して声援を送りました。

この観戦ツアーは、「する人」「見る人」「支える人」の三者を等しく支え、誰もが健やかに暮らせる「共生社会」の実現に寄与することを目指す、当社の活動の一環として実施されたものです。

【児童福祉施設で講演会】

鈴木孝幸は2018年7月25日、東京都内の児童福祉施設においてオリンピック・パラリンピック教育の一環として講演会を行いました。

生徒約50名、施設スタッフ約20名を前に「水泳から学んだこと」をテーマに講演。「興味があることはやってみる」「変えられるもの（自分の意志と行動）と変えられないもの（過去や物理的なこと）を分けて考え、変えられるものに挑戦してほしい」という思いを伝えました。



PROSPERITY

「東京都スポーツ推進企業」と 「スポーツエールカンパニー」に認定

当社は、2018年11月30日に「平成30年度 東京都スポーツ推進企業」に、2018年12月20日に「スポーツエールカンパニー」に認定されました。

「東京都スポーツ推進企業」は、社員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みやスポーツ分野における支援を実施している企業を、東京都が認定するものです。2018年度は264社が認定されました。

「スポーツエールカンパニー」は、社員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を、スポーツ庁が認定するものです。2018年度は347社が認定されました。

今回、当社は以下の取り組みが評価され、「東京都スポーツ推進企業」には4年連続、「スポーツエールカンパニー」は2年連続で認定を得ることができました。



具体的な取り組み

- ・毎朝始業前ラジオ体操を実施
- ・従業員クラブ活動を推進
- ・運動会実施(東京会場・富山会場/年1回)
- ・部署および個人 ウォーキングキャンペーンを年1回実施
- ・障がい者スポーツ選手の雇用(競泳選手、剣道選手等)
- ・スポーツ親善大会を年1回実施(富山にて開催)
- ・障がい者スポーツ競技の応援とパラリンピック競技種目の理解促進
- ・スポーツ大会におけるボランティア活動(富山マラソンなど)

災害復興支援

国連によると、自然災害を原因とする家屋損壊は、1990年以来大幅に増加しています。SDGsでは目標11において「住み続けられるまちづくりを」を掲げています。当社グループは、これまで国内外の自然災害に対し、義援金、募金、物資など、さまざまな形で復旧・復興を支援してきました。

「平成30年7月豪雨」に対する支援

当社とグループ各社は、「平成30年7月豪雨」の被災者支援のため、2018年7月15日から8月20日にかけて、全国の直営店および社内に募金箱を設置しました。募った寄付金と当社から拠出した義援金を合わせ、200万円を日本赤十字社を通じて被災地に寄付させていただきました。

PLANET

美しい自然は、スポーツを行う私たちのフィールドであり、地球環境の保護に貢献し、自然との調和を図りつつ企業活動を行うことは、すべての企業に課せられた責任です。当社は「地域社会と共存できる企業を目指す」ことを環境方針の中で定め、持続的かつ積極的に、自然環境の保護に取り組んでいます。私たちは、人々がスポーツを楽しめる豊かな自然を次世代に確かに受け渡すことを誓います。



環境に配慮した製品の開発、楽しみながら環境への負担を減らせるようなアイデアなど、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを「GREEN IS GOOD」のコンセプトのもとで展開しています。

PLANET

つくる責任・使う責任

当社では、スポーツ用品メーカーとして環境のためにできることを、GREEN IS GOODのコンセプトのもとで展開。「GREEN CYCLE(繰り返し使う)」「GREEN MATERIAL(選んで使う)」「GREEN MIND(大切に使う)」をキーワードに、製品づくりから回収・再生の各段階にて、緑の地球を守るための多彩な取り組みを実践。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」への貢献を目指しています。

「GREEN CYCLE(繰り返し使う)」の取り組み

循環型リサイクルシステムを2018年度も継続

「GREEN CYCLE」はメーカー・ブランド、質・状態にかかわらず、服を回収し、新たな製品の原料にリサイクルする、2009年に開始した当社の取り組みです。2018年度は、全国の当社直営店58店舗(2019年3月末時点)で服の回収を実施しました。

2018年度の回収重量は前年比約33%増の3,198.5キログラムと伸長し、年々多くの方にご協力をいただいております。回収重量3,198.5キログラムは、CO₂の発生量に換算すると24,052.7キログラムとなり、杉の木1,718本が1年間に吸収するCO₂量に相当します(※1)。

回収した服のうち、ポリエステルやナイロン製のものは、高純度の原料に戻すケミカルリサイクル(※2)を行い、ダウンウエアは新たなダウン製品の原料とします。

※1:環境省の「3R行動見える化ツール(簡易版)」にて換算

※2:ケミカルリサイクル

化学的に処理して、石油から製造した場合と同レベルの高純度の原料にリサイクルすること。



PLANET

リサイクルダウン「GREEN DOWN」を採用

2018年シーズンから、出荷する「THE NORTH FACE(ザ・ノース・フェイス)」ブランドの21品番のダウンアイテムの羽毛に、河田フェザーのリサイクルダウン「GREEN DOWN(グリーンダウン)」を採用しました。

当社では「GREENCYCLE」の一環として、2013年から限りある資源であるダウン(羽毛)を回収、精製し、再び新たな製品に利用することを目的とした「GREEN DOWN RECYCLE PROJECT」を、日本におけるダウンのリーディングカンパニーである河田フェザー株式会社、長谷虎紡績株式会社と協力し、開始しています。



【ダウンをリサイクルする主なメリット】

- ・使用後のダウンは家庭での洗濯などにより、バージンダウンと比べ初期の不純物がすでに取り除かれた状態です。これらのダウンを再び磨き上げて選別をかけることにより、良質なダウンとして再利用することができます。
- ・ダウンを焼却する際に発生するCO₂(ダウン1kgで約1.8kgのCO₂を排出)と、原産国から日本に送られる際のCO₂の排出を抑えられます。
- ・世界的に安価な飼育日数の短い食用水鳥が増え、高級食用とされる昔ながらの水鳥は大きく減っています。その副産物としての良質なダウンの供給量が減る一方で、ダウンウェアなどの需要が増えたことによる良質な羽毛の需給アンバランスの問題を解消することができます。

不要になった学校体操着の回収を 2018年も実施

当社が企画、製造、販売を行った体操服のうち、リサイクル対応素材使用の商品を回収し、循環型リサイクルシステムでポリエステル原料へとリサイクルを行っています。

2012年より、リサイクルシステムに対応した学校体操着をご採用いただいている高等学校で不要になった学校体操着の回収を開始し、過去6年間で約11%を回収。2018年度は富山県内の3校にご協力いただき、54枚を回収しました。



【回収実施校】

- ・富山県立富山北部高等学校
- ・富山県立高岡工芸高等学校
- ・富山県立泊高等学校

上記3校に期間中、回収ボックスを設置し、卒業する高校3年生の学校体操服を回収。

PLANET

リサイクルセイルを使用した海の家をオープン

当社が国内展開するブランド「HELLY HANSEN(ヘリーハンセン)」は、FMG株式会社に協力し、2018年7月6日から8月31日の期間限定で、神奈川県葉山一色海岸に海の家「THE SAIL HUS(セイルハウス)」をオープンしました。

「THE SAIL HUS」は、屋根や備品の一部にリサイクルセイルを使用するなど、より環境に配慮した海の家を目指しています。

HELLY HANSENとFMGは、このように環境に配慮した取り組みを継続的にいき、将来的に不要になったヨットの帆のリサイクルプログラムを構築することを目指し、地球環境の保全に貢献してまいります。



「GREEN MATERIAL(選んで使う)」の取り組み

柿、ススキ、松の天然色素を、染料として利用

当社と小松精練株式会社は、共同開発した特殊な技術により、玉ねぎの外皮を用いてメリノウールを天然色素と化学染料でハイブリッド染色したスポーツ衣料の製品化に、世界で初めて成功。当社が展開する「Icebreaker(アイスブレイカー)」ブランドで、2018年1月より販売しています。

天然染色の製品は美しい反面、色落ちしやすく、従来はスポーツ衣料に用いるには難しいものでしたが、共同開発した染色技術では、色落ちしにくく、美しい色合いが楽しめます。また、廃棄される予定の原料を染料として利用することにより環境へ配慮、自然界と共生することを目指すものです。

2018年の秋から展開した同シリーズの新製品では、柿(カキ/兵庫県の柿の葉)、薄(ススキ/東京都三宅島)、松(マツ/神奈川県箱根の葉や松ぼっくり)から得た天然色素を利用しています。



PLANET

「GREEN MIND (大切に使う)」の取り組み

リペアサービスを2018年も継続

当社では1978年に「THE NORTH FACE (ザ・ノース・フェイス)」の商品を取り扱い始めた40年前から「もし素材や製造上の欠陥が原因であれば、代金は一切いただきません。その他の場合は、適正な価格で修理いたします」というポリシーを徹底したリペアサービスを行っています。現在は、「THE NORTH FACE」をはじめとしたアウトドアブランドの製品に限らず、モーターサイクルウェア、スキーウェア、アスレウェアなども対象としています。

環境への関心の高まりなどにより、製品の使用期間は長期化する傾向にあります。それを受けて修理依頼も増加し、2004年の時点で年間3,500件程だった依頼は、2018年には13,629件と3.9倍に増えました。



【ゴールドウインテクニカルセンター】

富山県小矢部市にあるゴールドウインテクニカルセンターは、当社取り扱い商品の一部生産を行えるほどの設備と技術を備え、新製品開発のほか、ザ・ノース・フェイス商品などの修理業務を担っています。

回収したシューズをケニアのランナーへ

「THE NORTH FACE (ザ・ノース・フェイス)」は、株式会社POLE POLEが運営する日本とケニアのランニングを通じた国際交流を目的とした「Run For Friendship Project」に賛同し、2017年の9月から10月にかけてランニングシューズの回収プロジェクトを実施しました。

期間中、多くのお客様にこのプロジェクトにご賛同いただき、124足を回収することができました。株式会社POLE POLE代表の新井健一様がその中から選定し、一部のシューズを2018年2月4日、ケニアのランナーへ届けました。



PLANET

海・緑の豊かさを守る

SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」への貢献を目指し、各事業所・店舗において周辺の清掃活動などを行っています。

ショップスタッフによるアースデイアクションを実施

アースデイ(地球の日・4月22日)は、1970年から続く、地球のため、未来のために行動する日です。当社では毎年この日の前後に、各直営店において、アースデイアクションとして環境のためにできることに取り組んでいます。

2018年も各直営店のショップスタッフによるアースデイアクションが行われました。また、4月21日・22日の2日間でグリーン電力の導入を行いました。

【活動の一例】

- ・THE NORTH FACE コクーンシティ店(埼玉県):近隣ランニングコース清掃ラン
- ・THE NORTH FACE 昭島アウトドアヴィレッジ店(東京都):地域清掃(昭島駅・アウトドアヴィレッジ周辺)
- ・THE NORTH FACE 新潟店(新潟県):信濃川周辺清掃活動
- ・藤井大丸(京都府)に出店している4店舗合同:鴨川遊歩道清掃活動
- ・THE NORTH FACE+西宮ガーデンズ店(兵庫県):六甲山系清掃トレッキング
- ・THE NORTH FACE+松山店(愛媛県):城山清掃登山



環境活動報告

ゴールドウイングループでは「環境基本理念」と「環境方針」を定め、持続可能な社会実現のための行動計画を作成し、環境パフォーマンスの持続的な改善に取り組んでいます。

持続可能な社会を実現するために

環境基本理念

私達には、自然と共存し調和ある繁栄を実現する崇高な使命が与えられています。ゴールドウイングループは、スポーツウエアをはじめ各種機能ウエアの企画、製造、販売を通じて環境負荷の低減を目指すとともに、健康総合企業として地球環境にやさしい商品の提供により環境への有益な影響を増進するなど、地球環境保護への姿勢を以下の環境方針に定めます。

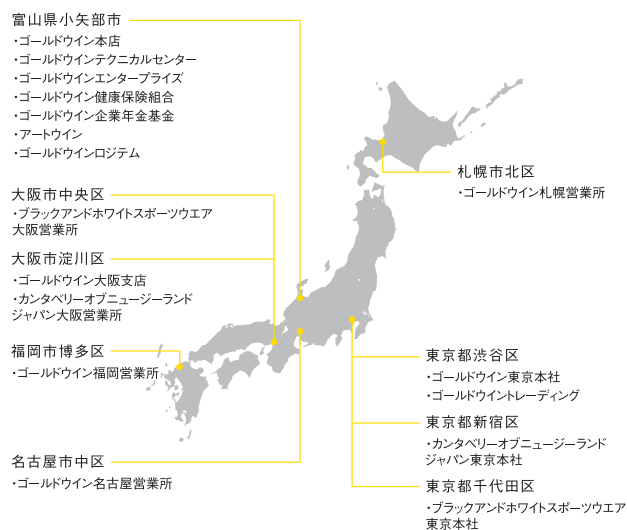
環境方針

1. 事業活動または保有する設備が適用を受ける環境に関する法律、規則およびその他要求事項を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、環境の汚染予防と環境保護に努めます。
2. 事業活動が環境に与える有害な影響を認識し、全社員参加によりその影響を低減し、緑の地球を守ります。
3. 環境影響を改善するための目的・目標の設定、および見直しを実施し、継続的な改善活動を実施します。
4. エネルギーおよび資源の使用量・排出量を十分に認識し、限りある地球資源の有効利用、産業廃棄物の削減を実施します。
5. 持てる経営資源を結集して独自の技術を開発し、人の健康と環境にやさしい商品の開発を推進いたします。
6. 自然と生き物が健康体であり続けるために、自然環境に調和し、地域社会と共存できる企業であり続けます。

ISO14001 認証取得

ゴールドウイングループは富山地区にて、スポーツアパレル業界で初めて1999年11月にISO14001（環境マネジメントシステム）の認証を取得しました。環境保全活動・環境配慮商品の開発と省資源による事業効率向上とを両立させるため、2006年2月にはゴールドウイン全事業所と染色センターがISO14001の認証を取得。さらに2008年7月にはゴールドウインロジテムが、2011年8月にはカンタベリーオプニュージーランドジャパンが、2013年9月にはブラックアンドホワイトスポーツウエアが、同様にISO14001の認証を取得しています。当社の経営方針の1つである「きれいな経営」を実践し、雇用・経済活動に加え、環境に配慮した商品・サービスの提供を通じて社会に貢献してまいります。

ISO14001 認証事業所



環境活動報告

限りある地球資源の有効活用

当社は環境方針の中で「限りある地球資源の有効活用」を掲げており、省資源活動、原材料使用料の削減を進めています。2017年度は、原材料ロスの低減活動の推進、クレーム・リペア情報からのフィードバックによる設計改善、設備管理・工程管理の徹底、物流梱包資材の削減活動の推進、仕事の仕組み・仕方の見直しによる管理・効率のアップ(業務改善活動)の推進。使用後の製品回収活動再利用システム・製品回収量の向上(アイコレクトジャパンとの協働)に取り組み、2017年度は1年間で2.4tの製品を回収しました。

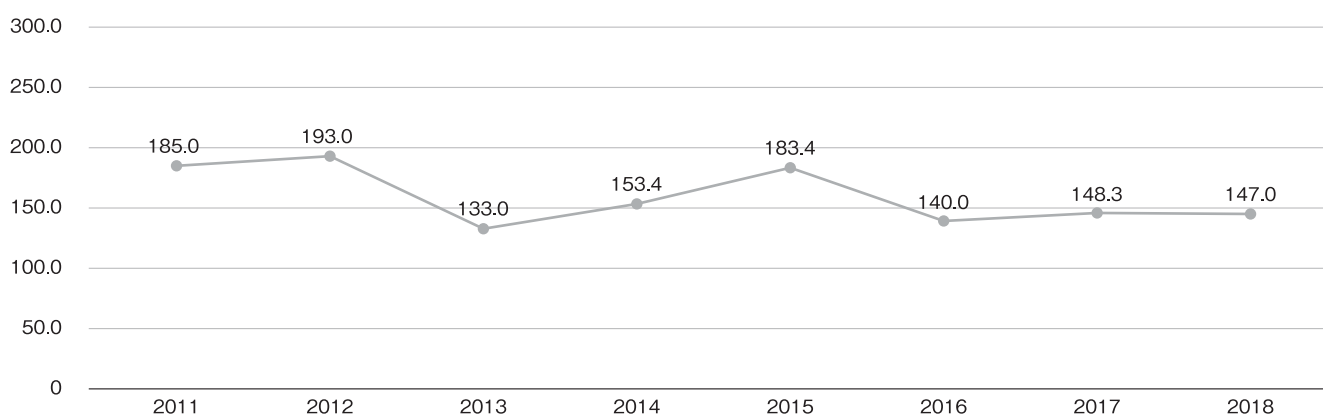
①産業廃棄物の削減

産業廃棄物の削減

当社は環境方針として、製品・原材料における廃棄処分量の低減を掲げ、その発生抑制と製品の再利用を進めています。2017年の結果は148tとなり基準年比目標を達成できました。今後も廃棄物発生予防へ向けた活動の推進、発注流動管理

の徹底、余剰資材の有効活用の推進、製品不良・リコール低減活動の推進、加工ロスの徹底排除、廃棄物の分別、細分化による再利用の推進、5S活動の推進などを通して、産業廃棄物の削減にこれまで以上に努めてまいります。

産業廃棄物(廃プラ)排出量推移(t)



環境活動報告

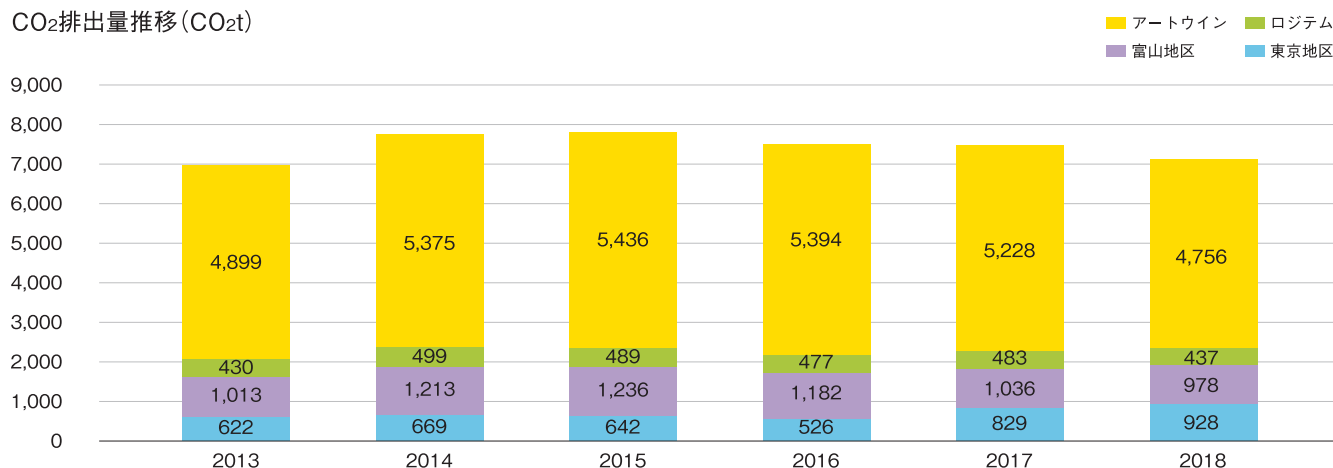
②低炭素社会に向けて

環境の汚染予防と環境保護

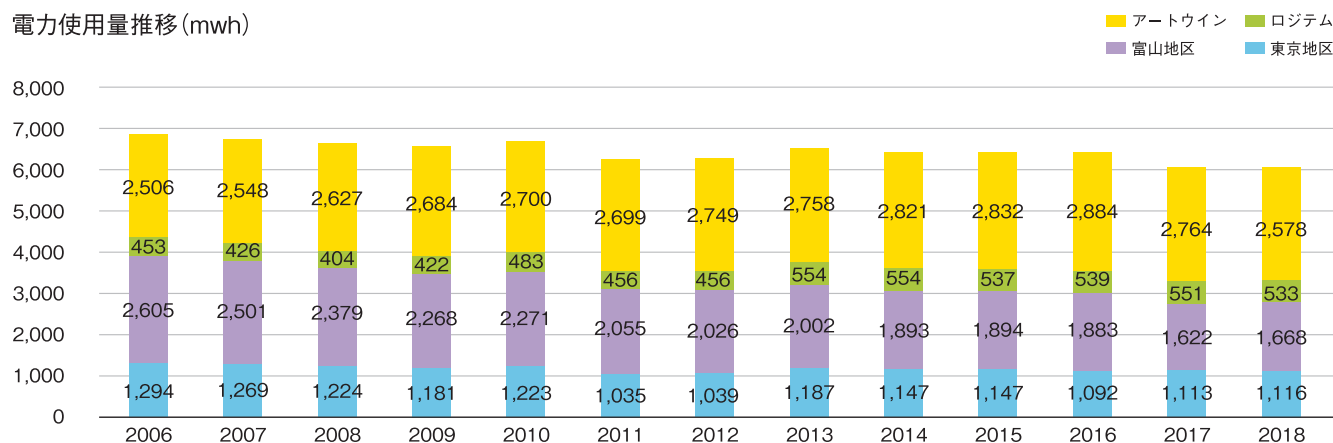
当社は環境方針の中で「環境の汚染予防と環境保護」を掲げており、CO₂排出量の削減に継続的に取り組んでいます。2017年度は管理指標としてCO₂排出量7,981t以内を設定、富山地区での照明LED化による電力消費削減の効果もあり、実績は7,575tと目標を達成しました。引き続き、省電力活動の

推進、業務改善や作業の効率化による時間外労働の削減、生産体制における省エネ設備の導入、メンテナンスおよび効率稼働、輸送ルートの見直しや積載効率の改善、アイドリングストップなどによる省エネ運転の推進など、低炭素社会のための取り組みを行っています。

CO₂排出量推移 (CO₂t)



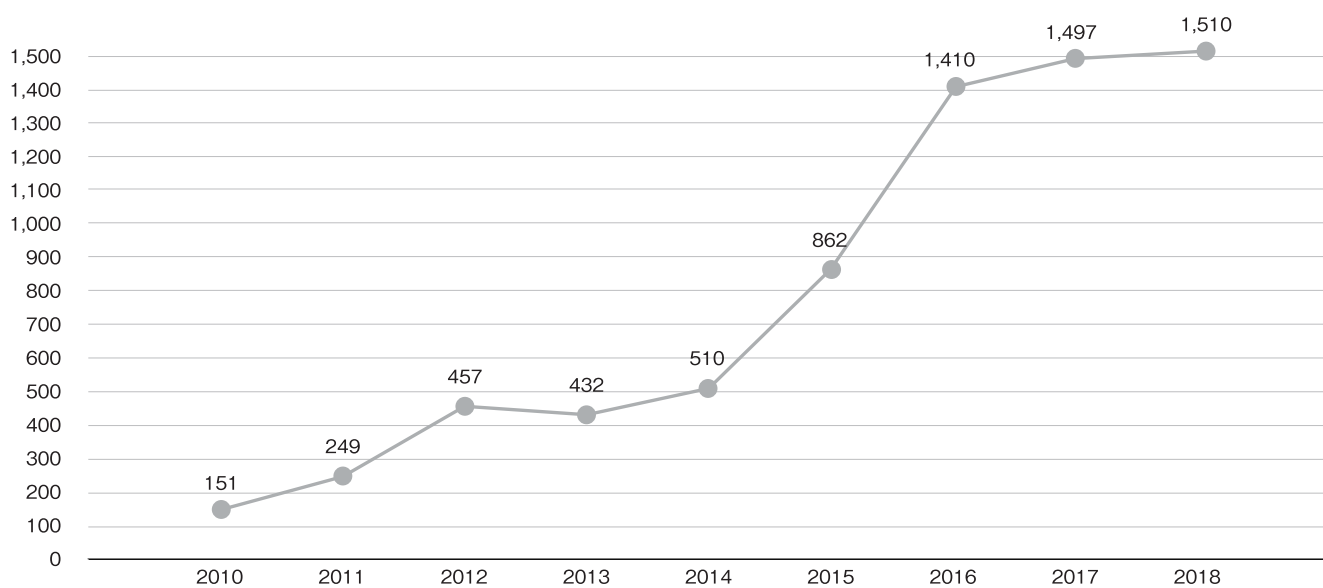
電力使用量推移 (mwh)



環境活動報告



業務改善件数推移(件)



コーポレートガバナンス

社会に開かれた経営とコーポレート・ガバナンス

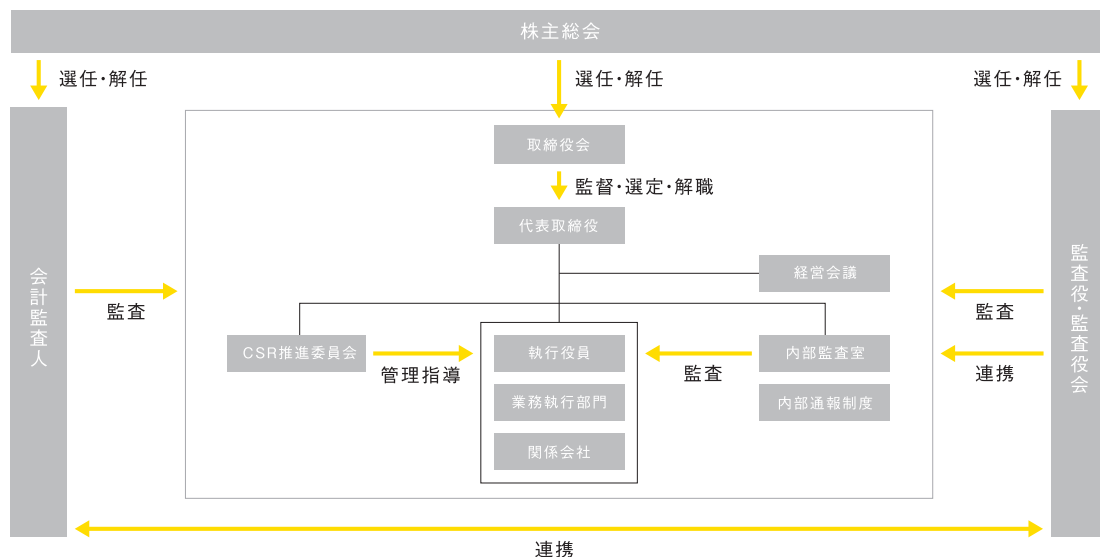
株主・投資家の皆さまとの関わり

良識ある企業としての社会的責任を果たすため、当社では経営の公開性をより一層高め、内部統制やコンプライアンスの遵守を通じ、公正で効率的な企業経営を実現してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。取締役会では法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施いたします。なお、取締役10名のうち、2名は社外取締役であります。取締役会が任命する執行役員は各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略に基づき、業務を執行します。取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。監査役

会は4名で構成され、うち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善・向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。東京証券取引所においてコーポレートガバナンス・コードが制定され、上場規程として2015年6月1日より適用されております。当社はコーポレートガバナンス・コードの各原則を尊重し、これらを適切に実行してまいります。コーポレートガバナンス・コードへの対応状況などについては、コーポレートガバナンス報告書で適時開示しております。



内部統制システム～業務の適正を確保するための体制

当社は経営方針、タグライン「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」、および行動規範に示される経営戦略ミッションをゴールドウイングループ全役員によって具現化するために、適切な組織の構築、規程・ルール制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行い内部統制システムを整備・維持しております。また、内部統制システムは適宜見直しと改善を行い、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立を図っております。

内部統制システムの基本方針

<https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-C>

企業行動規範・従業員行動基準

<https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-E>

コンプライアンス体制について

当社およびグループ会社では、内部通報制度の運用や、社外取締役・社外監査役が取締役会および監査役会において独立かつ客観的な立場から意見を述べることで、職務執行の適法性・妥当性を確保しコンプライアンス体制を構築しております。また全従業員を対象とする「コンプライアンス研修」を毎年実施(2017年度の実施回数は61回、履修率95.1%)しており、かつ各種研修の際にも法令や経営理念、行動規範などの周知徹底を行い、内部監査や内部統制評価を通じて、各拠点で業務手順やマニュアルの遵守状況について確認を行っております。全従業員に内部通報制度の仕組みや行動規範・行動基準等行動の指針となる携帯用の「コンプライアンスカード」を配布して常時携帯するよう指導しているほか、メールマガジン「コンプラマガジン」を定期的に発行し、従業員のコンプライアンス意識向上・啓蒙に努めました。

ゴールドウイングループ
コンプライアンスカード
(携帯用)

ゴールドウイン役職員は、
このカードを念頭に倫理的に行動します。

GOLDWIN

会社概要

株式会社ゴールドウィン GOLDWIN INC.

東京本社

〒150-8517 東京都渋谷区松濤2-20-6 TEL 03-3481-7201(代表)

本店

〒932-0112 富山県小矢部市清沢210 TEL 0766-61-4800(代表)

設立	昭和26年12月22日
資本金	7,079百万円(2019年3月31日現在)
年商(連結ベース)	84,934百万円(2019年3月31日現在)
従業員	1,729名(グループ2,526名)
事業所	本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、 福岡営業所(2019年3月31日現在)
会社概要詳細	https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about
ホームページ	https://www.goldwin.co.jp/
決算短信等IR情報	https://www.goldwin.co.jp/corporate/info/ir

経営指針

1.強い経営

選択と集中を強め、財務体質を強化すると共に、中長期視点で積極投資し、企業価値を高める。

2.速い経営

顧客ニーズの変化に俊敏に対応し、商品企画から調達・販売までのプロセスを最適化し、実需型ビジネスを推進する。

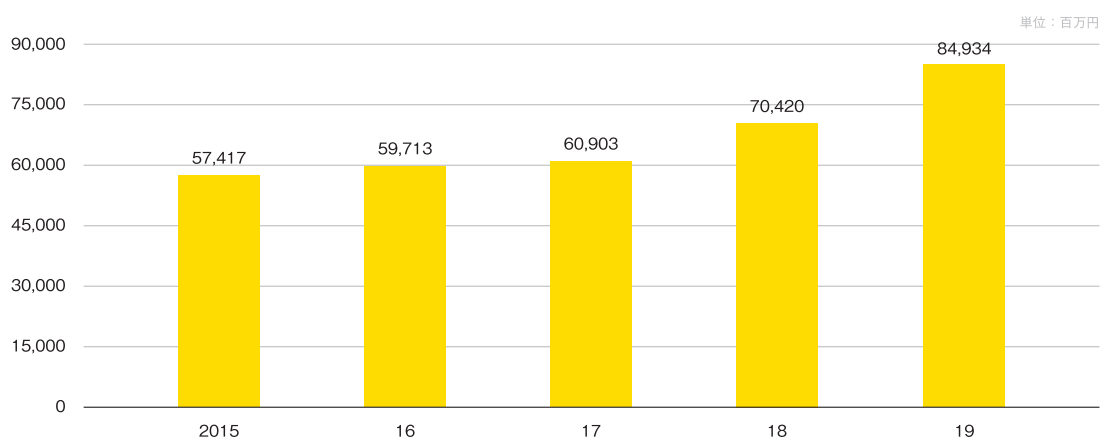
3.きれいな経営

ワークライフバランスを重視すると共に、環境に配慮した事業運営と、情報の透明性を堅持する。

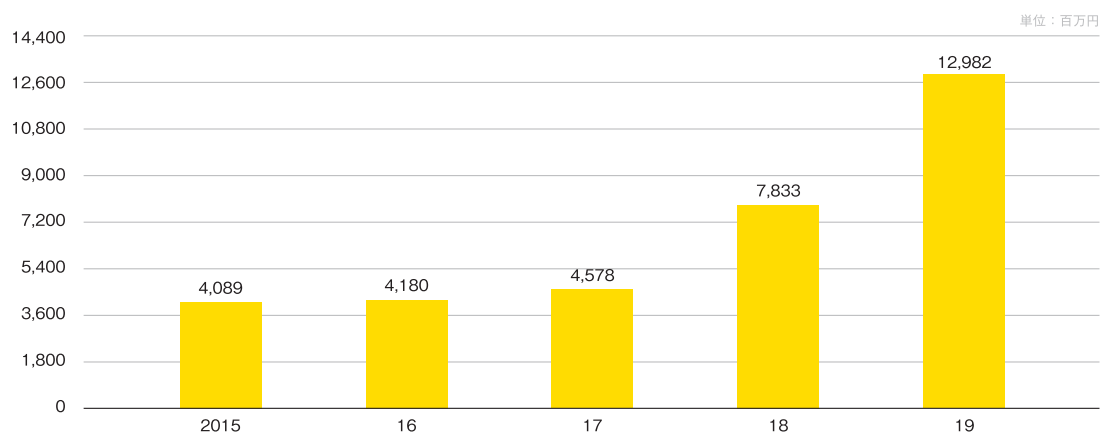
経営情報

連結

売上高



経常利益



当期純損益

